

藤井しんすけ 議会ニュース 議会録

平成 28 年 教育・スポーツ振興対策特別委員会 (4) | 平成 29 年 3 月 7 日

藤井(深)委員

それでは、県立高校改革の総合学科について質問をさせていただきたいと思います。総合学科の見直しについて何点か伺いたいと思います。

本県では、総合学科を全 11 校設置したわけですが、どのような考え方でまず設置したのか確認したいと思います。

県立高校改革担当課長

本県の総合学科高校につきましては、当初は平成 8 年度設置の大師高校 1 校だけでした。その後、前回の高校改革におきまして、生徒の多様なニーズに対応するため、総合学科の設置を拡大し、現在 11 校が設置されてございます。

配置の考え方は、生徒の通学利便性に配慮する観点から、地域バランスを勘案して県内を 10 の地域に分け、1 地域に 1 校、基本的に配置したものでございます。

藤井(深)委員

バランスよく配置されたというのは分かるんですが、総合学科ですが、端的に言って普通科と職業科を合わせたような学科になっているし、また単位制によって普通教育及び専門教育を選択履修を旨として総合的に施す学科ということなんですけれども、具体的にどういったものなのか、特に総合学科におけるカリキュラムの特色について伺いたいと思います。

高校教育課高校教育企画室長

総合学科高校の教育課程を考えるに当たりましては、将来の職業選択を視野に入れた学習、また学ぶことの楽しさや充実感を体験させる学習を重視することが基本となっております。この中で、総合学科の全ての生徒が学ぶ科目としまして、産業社会と人間という科目があるんですが、そのところで体験学習などを通じまして、自分の個性、適性を発見し、将来の生き方や進路について考えたり、また学習の仕方、いわゆる選択科目の選択の仕方を学んだりします。

また、普通科に関する科目だけではなく、専門学科の科目も設置してある科目群、いわゆる系列という名前があるんですが、そういった群から自分の進路希望や興味関心に応じて科目を選択し、個性を伸ばし、専門性を高める学習を行うということになります。

藤井(深)委員

それでは、この主な総合学科高校の特色ある取組についてお伺いしたいと思います。

高校教育課高校教育企画室長

例えば、秦野総合高校におきましては、スポーツマネジメントという授業がありまして、その授業におきまして、秦野市内の小学校や地元の自治会、また秦野市民の日などで行われる体育的行事の企画や運営、支援に関わる学習活動を展開しております。このような体験的な学習を通じまして、生徒からは異年齢の人たちとの触れ合いを通して人として成長

することができたとか、将来スポーツに関わる仕事をしたいので、この経験を生かしたいといった感想が寄せられております。総合学科の教育活動として重視すべき内容が実現されている取組であると捉えております。

藤井(深)委員

今の体験的学習は非常に大事なことだろうと思います。そういった意味では、そうした総合学科設置の成果について、報告資料の平成 21 年度実施の生徒を対象としたアンケート結果によれば、キャリア教育等に関する満足度が高いということになっておりますが、一方で、この総合学科の教員を対象としたアンケートとか意識調査は行ったのかどうかお伺いします。

県立高校改革担当課長

総合学科や普通科専門コースなどの新タイプの教員向けのアンケートを同時期に実施しております。その結果ですけれども、資格取得などへの支援ができていうことや、校外講座の聴講による単位認定の仕組みが整備されているということについては、満足している、それからおおむね満足しているという答えが 90%でありまして、多様な学習機会の拡大についてはおおむね図れているという報告がございます。

藤井(深)委員

今の御答弁ですと総合学科を含めた新タイプについて、教員の皆さんもおおむね満足しているということのようですが、そのまた逆に、もし教員の皆さんからの視点で、総合学科の課題があれば伺いたい。

県立高校改革担当課長

総合学科につきましては、生徒一人一人の興味関心、それから進路希望、学習希望に対応するために多様なカリキュラムを提供しております。そうした教育活動を展開するに当たりまして、特定の教職員や外部人材へ過度に頼らざるを得なくなり、必ずしも継続的に教育内容の提供が保証されないという課題がございました。また、多彩な科目を配置していることから、専門性の高い教職員の継続的な配置が困難であり、多くの分野にわたる様々な種類の科目を一人の教員が受け持たなければならなくなるという課題も指摘されてございます。

藤井(深)委員

生徒の視点から総合学科を単位制普通科へと改編する必要性が生じたこの背景として、生徒の学習ニーズに応える必要があるということなんですが、具体的に総合学科に在籍する生徒の学習ニーズにはどういった傾向があるのか伺います。

県立高校改革担当課長

総合学科の設置趣旨といたしまして、専門科目を含めた幅広い選択科目を履修することで、いわゆる自分探しとして将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めるということがございます。しかしながら、そうではなく、自己の進路希望をある程度固めて、例えば大学等上級学校への進学を目指すための科目を選択するといった生徒が増えていくという傾向がございます。

藤井(深)委員

現在 11 校ある総合学科なんですけれども、新年度から 7 校になるということなんですけれども、その 7 校の生徒の学習ニーズに対応するために、こういった改善を行おうとされているのか伺います。

高校教育課高校教育企画室長

平成 29 年度の全日制総合学科 7 校につきましては、今年度、7 校の校長先生と教育委員会とによりまして、神奈川県立高等学校全日制総合学科改善実施計画を作成しまして、その中で教育課程の改善において 7 校が連携・協力してその成果を生かし、よりよい教育内容を提供できるよう努めることとしております。この中で、総合学科を志望する中学生や在学している生徒にとって分かりやすいものにするを目的としまして、7 校におきましては選択科目を学びのまとまりで整理した、先ほど申し上げました系列という部分につきましては共通化を図ったということになります。また、1 年次生におきます産業社会と人間という科目の学習から、2 年次以降の科目の選択におきまして、基礎的な科目やまた応用・発展的な科目へと系統的な学習ができるよう教育課程を確立しております。

さらに、生徒が科目を選択する際には、選択パターンを明示するなどガイダンスやカウンセリングの機能を高めまして、将来の職業選択や進路希望の実現に向けてきめ細かい指導や支援ができるよう教育課程体制を強化していきたいと思っております。

藤井(深)委員

要望も含めて意見なんですけれども、一番高校教育課高校教育企画室長の答弁でもありました生徒の充実感が非常に大事だと思います。一方で、教員の皆さんに過度の負担がかかっている。結局カリキュラムを工夫してつくっているのですけれども、人気のあるところもあれば、また開店休業と言ったら失礼ですけれども、そういったところもあるんじゃないかと推測されるんです。そういったところも、今までの経験とかをひっくるめて、この 7 校にしっかり生かしていただきたいと思っております。

今、時期がちょうど中学生、15 歳から 16 歳、その中で将来の進路ということで、なかなか難しいところがあります。是非中学の先生方と個々に連携をとっていただきたい。特に進路指導のときにはしっかりと対応していただきたいと思っております。

いずれにしても、生徒の要望、ニーズが一番大事なんだろうと思っております。おおむね満足されている方々が多いだけに、是非しっかりと今後も引き続き継続していけるようお願いしたいと思います。

次に、ラグビー・オリパラ神奈川応援団についてなんですけれども、先ほど来、気運醸成の問題がいろいろ出てきておりまして、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの前年にラグビーのワールドカップ 2019 があるということで、そういった意味では非常に、大いに気運を盛り上げていくことは大事だろうと思うんですが、その中で、資料に出ておりましたラグビー・オリパラ神奈川応援団についてまずお伺いしたいと思います。

この気運を醸成していくというのは、非常に大事なことだろうと思っております。いかにして盛り上げていくかというのは大事なところだと思うんですが、そういった中でこういう体制を組んでこられたと思うんです。非常に大事な応援団だと私も認識はしております。

最初に、ラグビー・オリパラ神奈川応援団という組織を立ち上げたときの趣旨は、こういったものがあるのか伺いたいと思っております。

オリンピック・パラリンピック課長

ラグビー・オリパラ神奈川応援団でございますが、ラグビーワールドカップ 2019 と東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会、両大会の成功に向けまして、県内の市町村、関係団体・機関等が一体となって気運醸成の取組を推進する組織として立ち上げたものでございます。

藤井(深)委員

神奈川全体でこれを盛り上げていくという組織なんですけれども、神奈川県全体となると、いろんな分野の方々の応援も頂く必要があるだろうと思います。また、特に県をはじめとして各市町の自治体も盛り上げていく団体に加わっていただいているのでしょうかけれども、まずはその推進力、いわゆる核になるメンバー構成はどうなっているのかお伺いいたします。

オリンピック・パラリンピック課長

ラグビー・オリパラ神奈川応援団でございますが、知事が会長を務めるほか、副会長に神奈川県商工会議所連合会の会頭、それから神奈川県体育協会会長、それから横浜市長、藤沢市長及び県議会議長の 5 名の皆様に就任していただいております。また、メンバー構成といたしましては、県内の全ての市町村のほか、経済団体、スポーツ団体などおよそ 120 の団体等に参画いただいております。

藤井(深)委員

今の構成をお聞きしたんですけれども、大体会議をやっても 20 分から 30 分で終わりそうな構成メンバーだったりします。余り具体的な話は進まないと思うんです。具体的な取組を検討できる体制はあるのかどうか。それはいかがでしょうか。

オリンピック・パラリンピック課長

委員御指摘のとおり、具体的な取組を検討できる体制といたしまして、ラグビー・オリパラ神奈川応援団では二つ部会を設置しております。一つは、神奈川県オリパラ文化プログラム推進協議会を文化プログラム推進部会として設置いたしまして、もう一つは、応援団設立に先駆け昨年 6 月に設置しておりました神奈川県観光魅力創造協議会を観光部会として位置付けております。

藤井(深)委員

今御答弁いただいたそれぞれの部会の現在までの開催状況と検討内容を教えていただけますか。

オリンピック・パラリンピック課長

文化プログラム推進部会でございますが、県内全市町村の課長級の幹事会を今まで 3 回開催しております。組織委員会が実施する参加プログラムなどの文化プログラムに係る認証制度について情報共有を図るとともに、オール神奈川での統一テーマの設定などについて検討しております。

また、観光部会は、6 月以降 3 回開催しております。県内の市町村、観光協会、旅行者や交通事業者などと連携しながら、県内を周遊するツアーの企画・商品化に取り組んでおりまして、まずはこれまで注目されていなかった観光資源の発掘を進め、これまで

1,000 件以上洗い出しております。

藤井(深)委員

次に、この応援団開催に向けて準備を重ねていただいていると思うんですけれども、次の開催予定、また今後はどの程度の頻度で行うのかお伺いいたします。

オリンピック・パラリンピック課長

次の開催でございますが、5月頃を予定しております、開催頻度につきましては年一、二回を想定しております。また、総会の場以外におきましても、二つの部会での活動やメールによる情報の共有など、ラグビー・オリパラ神奈川応援団を各構成団体のネットワークとして活用いただけるよう行っていきたいと思っております。

藤井(深)委員

このラグビー・オリパラ神奈川応援団に対して、様々各界の皆さんにも御支援、御協力いただけるということなんですけれども、このラグビーワールドカップ、それからオリンピック・パラリンピックに向けて県の盛り上げを図っていくために、今後この組織をどのようにしていこうと考えておられるのかお伺いします。

オリンピック・パラリンピック課長

このラグビー・オリパラ神奈川応援団でございますが、先ほどから申し上げてますように、幅広い分野の皆様にお集まりいただいております。これから両大会に向けた取組を全県で行っていくためにも、各団体がどのような取組を行っているかについて情報提供いただきまして、それをメンバーと共有してお互いに参考にすることで、自分たちの取組を考えていくことがそれぞれできます。そういった情報共有ですとかメンバー同士の意見交換を行いまして、全県的な気運醸成を図ってまいりたいと思っております。

藤井(深)委員

気運醸成については、恐らく東京都を中心に埼玉県も千葉県もそうだと思いますけれども、何とかいろいろ盛り上げていこうと考えている。一つには、埼玉県は何かおもてなしの気運醸成についての担当があるらしいです。それをつくれという話ではなくて、先ほどの観光を中心とした考え方も持っていると思うんですけれども、みんな気合を入れて、ラグビーが始まるんだと思い出してこないといけないし、さっき話したセーリングはどこがポイントなのかといった話が実はあって、どこをどういうふうに見ればおもしろく感じるという話になって、ルールもさることながら、いろんな気運醸成の盛り上げ方があると思うのです。神奈川県内の有名人に頼るわけではないですけれども、オール神奈川県でいくのであれば、そういう方々も是非御足労いただいて、何か盛り上げに一役買っていただくことを考えた方がいいのではないかと思います。もうゆるキャラの時代ではないと思います。是非、絶えずいろんなところでそういうことだとか、音楽や何でもいいですけれども、それを聞いたらすぐ思い出す何かをこれから担当者の皆さんで是非考えていただいて、やっていただきたいと思います。

また、もう折り返しの時点にもなってきました。残り2年になってきますから、議会もまたしっかりいろんな形で応援体制をつくっていくと思います。ですから、まずそういった意味ではしっかり皆さんでそういう案をつくっていただいて、ともに盛り上げていけるように、気運醸成を図っていけるように頑張りたいと思います。是非よろし

くお願いしたいと思います。